

奈良国立文化財研究所要項

Ⅰ 事業概要

1 研究普及事業

公開講演会

- (1) 1977年5月21日 第41回公開講演会
「文化財における自然科学の応用」 沢田 正昭
「薬師寺金堂の薬師如来像
—— 鑄造技法をめぐる ——」 田中 義恭
- (2) 1977年11月19日 第42回公開講演会
「地下遺構の探査」 西村 康
「遺跡保存と造園学」 安原 啓示

現地説明会

- (1) 1977年6月11日 平城宮推定第一次朝堂院地区東北部発掘調査現地説明会 土肥 孝
- (2) 1977年10月8日 平城宮東院地区西辺部発掘調査現地説明会 光谷 拓実
- (3) 1977年12月19日～21日 平城京左京三条二坊北宮庭園跡発掘調査現地説明会 安田龍太郎

2 1977年度文部省科学研究費補助金による研究

種 別	研 究 課 題	研究代表者	交付額 千円
特 定 研 究 (I)	遺構の埋藏環境と劣化現象ならびに保存処理に関する研究	佐 原 真	3,500
〃	写真測量による建造物の経年変化の研究	工 藤 圭 章	4,200
〃	地下遺構の探査法の開発	田 中 琢	4,700
〃	遺跡に関する情報の活用システムの基礎的研究	田 中 琢	2,000
一 般 研 究 (A)	白杵磨崖仏の復元の研究	星 山 晋 也	5,000
一 般 研 究 (B)	三手先構造の変遷に関する調査研究	工 藤 圭 章	2,500
一 般 研 究 (C)	わが国古代における建築物造営供養の考古学的研究	森 郁 夫	1,000
〃	弥生時代の地域性に関する研究	工 業 普 通	1,400
一 般 研 究 (D)	木簡からみた律令地方行政の研究	今 泉 隆 雄	460
〃	産地分析よりみた7～8世紀土師器生産組織の研究	西 弘 海	400
〃	古墳時代末期土器の編年的研究	西 村 康	420
〃	民家棟札の調査研究	宮 沢 智 士	430
奨 励 研 究 (A)	日本先土器時代の局部磨製石斧について	岡 本 東 三	350
〃	猪形土製品の研究 —— 縄文期貝塚出土の例を中心とした生態学的研究 ——	土 肥 孝	300
〃	南都七大寺における瓦の同范関係と瓦工組織の研究	山 崎 信 二	280
〃	土器焼成技法の基礎的集成的研究	西 口 寿 生	280
〃	古代地方官衙遺構の研究	山 中 敏 史	300
〃	町並・集落における歴史的環境の形成に関する基礎研究	上 野 邦 一	380
〃	古代集落変遷過程の研究	宮 本 長 二 郎	400

3 飛鳥資料館の運営

展 示

第一展示室 常設展示

- (4) 1978年1月21日 藤原宮大極殿院西殿跡発掘調査現地説明会 鬼頭 清明
- (5) 1978年3月9日～10日 薬師寺小子房・十字廊(食殿)跡発掘調査現地説明会 菅原 正明
- (6) 1978年3月23日 藤原宮内裏内郭東南部発掘調査現地説明会 金子 裕之

平城宮跡資料館・覆屋公開

- (1) 春季特別公開 1977年4月29日～5月8日
見学者 5,938名
- 秋季特別公開 1977年10月22日～11月6日
見学者 23,610名

(2) 見学者数

区 分	資料館	覆 屋	計
1977年	10,260	88,635	98,895
累 計	236,452	528,970	765,422

※資料館は1970年度・覆屋は1968年度以降

第二展示室 特別展示「日本古代の墓誌」

(1977.9.15～1977.11.6)

屋 外 展 示 資料館敷地内石組噴渠

普及 前年同様インフォメーションルームで観覧者の質問に応じている。また特別展示のカタログとして「日本古代の墓誌」を刊行。

入館者数 (1977.4.1～1978.3.31 開館日数302日)

	普通観覧	団体観覧	有料計	無料	合計
一般	57,924	41,719			
小・中学生	8,803	25,693	134,139	5,073	139,212
計	66,727	67,412			

模造製作 鰐淵寺観音菩薩立像(東京国立博物館)、威奈大村骨蔵器(四天王寺)、猿石(模造原型)、橘寺・山田寺・紀寺・定林寺軒丸瓦(黒川古文化研究所)、山田寺埴土、勝勝寺骨蔵器(岡山県勝勝寺)

4 埋蔵文化財センターの研修・指導

研修 埋蔵文化財の保護に資することを目的として、おもに地方公共団体の埋蔵文化財保護行政担当者を対象に次の研修を実施した。

- (1) 昭和52年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(遺跡調査課程)
1977年5月9日～5月28日(参加者13名)
- (2) 昭和52年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(遺物整理課程)
1977年6月13日～6月25日(参加者18名)
- (3) 昭和52年度埋蔵文化財発掘技術者一般研修
1977年7月25日～8月27日(参加者18名)
- (4) 昭和52年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(遺跡遺物写真課程)
1977年9月26日～10月1日(参加者16名)
- (5) 昭和52年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(遺物保存科学課程)
1977年10月17日～10月29日(参加者12名)
- (6) 昭和52年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(分布調査課程)
1977年11月11日～11月19日(参加者14名)
- (7) 昭和52年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(遺跡保存整備課程)
1977年12月15日～12月21日(参加者18名)
- (8) 昭和52年度埋蔵文化財発掘技術者特別研修(特殊調査技術課程) 中世城郭調査の問題点
1978年1月17日～1月20日(参加者30名)
- (9) 昭和52年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(遺跡測量課程)
1978年2月13日～3月25日(参加者10名)

(10) 研修員受入

金炳虎(韓国文化財研究所化工技士補)
1977年7月27日～9月12日

(11) 招へい研究者

Franz Schubert(ドイツ考古学研究所ローマ・ゲルマン研究部高等研究員)
1978年3月5日～5月3日

調査整備等指導

(本文および研究発表掲載の分は除く)

(北海道)新千歳空港整備事業関連遺跡、興津遺跡、ウマクサ遺跡、開陽九埋没遺跡、(岩手)胆後沢遺跡、(栃木)下野国府跡、(富山)ニッ塚遺跡、(長野)座光寺所在遺跡、(岐阜)美濃国分寺(静岡)藤枝市郡衙跡、(愛知)大山廃寺跡、名古屋城二之丸庭園、(三重)北掘池遺跡、(滋賀)榎木原遺跡、(京都)蛇塚古墳、京都市高速鉄道烏丸線内遺跡、(兵庫)寺内遺跡、丹波姫古窯、明石城植物園建設予定地、千木屋廃寺跡、(奈良)新沢千塚古墳群、(和歌山)タタラ遺跡、上秋津銅鐸出土遺跡、(鳥根)タテチュウ遺跡、(岡山)美作国分寺跡寒風古窯跡群、(広島)大宮遺跡、草戸千軒町遺跡、(山口)綾羅木郷遺跡、(香川)讃岐国司庁跡、(福岡)福岡市地下鉄工事建設関係遺跡、(佐賀)金立丸山古墳群、肥前国府跡、九州横断高速自動車道建設関連遺跡、(神輿)首里城跡、渡名喜島西底原遺跡

埋蔵文化財ニュース刊行

- 第8号 昭和50年度埋蔵文化財関係報告書一覧
1977年5月15日刊
- 第9号 市町村史刊行の現状 1977年6月15日刊
- 第10号 市町村における埋蔵文化財発掘調査等の現状 1977年11月11日刊
- 第11号 木簡調査の現状 1977年12月13日刊
- 第12号 昭和50年度埋蔵文化財関係記事掲載一覧
1978年1月10日刊
- 第13号 古代家屋復原実態調査
1978年3月20日刊

5 その他

委員会等

- 平城・飛鳥藤原宮跡調査整備指導委員会
1977年6月3日・4日 於平城宮跡資料館
- 第4回飛鳥資料館運営協議会
1977年5月31日 於飛鳥資料館
- 第3回木簡研究集会
1977年12月13日・14日 於平城宮跡資料館

奈良国立文化財研究所要項

外国出張

佐藤興治 韓国における古代仏教関係遺跡及び都城遺跡の調査研究のため大韓民国へ派遣。

1977年 5月29日～同年 6月25日

宮澤智士 文部省在外研究員として連合王国・アイルランド・フランス・イタリアに派遣。

：ヨーロッパにおける歴史的環境の保存手法の研究

1977年 8月29日～同年10月28日

協力事業等

文化庁では1971年度から特別史跡藤原宮跡の国有化を進めており、1972年度から当研究所が文化庁から支出委任を受けて買取事務を担当しているが、1977年度の状況は下記の通り

区 分	面 積	購 入 額
1977年	33,184.50㎡	552,123,634円
国有地合計	148,040.53	2,313,321,240

Ⅱ 図書及び資料

図書 41,729冊

区 分	種 別	購 入	寄 贈	計
1977年	和 漢 書	1,371	1,709	3,080
	洋 書	272	29	301
累 計	和 漢 書	24,625	14,269	38,894
	洋 書	2,473	362	2,835

写真 163,025点 (1977年度未現在)

Ⅲ 研究成果刊行物

1977年度刊行物

名	称
学報第31冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ 藤原宮西方官衙
学報第32冊	研究論集Ⅳ
学報第33冊	イタリア中部の一山岳集落における 民家調査報告
学報第34冊	平城宮発掘調査報告Ⅲ
史料第12冊	藤原宮木簡 1 図版・解説
史料第13冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅳ
図録第 3 冊	日本古代の墓誌
概 報 他	昭和51年度平城宮発掘調査概報 平城宮跡出土木簡概報11

藤原宮跡発掘調査概報 7
飛鳥編年史料集稿 3
平城宮出土軒瓦型式一覧
飛鳥資料館案内 (英文カタログ)

前年度までの刊行物

奈良国立文化財研究所学報

年度	名	称
1954	第1冊	仏師運慶の研究
	第2冊	修学院離宮の復原的研究
1955	第3冊	文化史論叢
1956	第4冊	奈良時代僧房の研究
1957	第5冊	飛鳥寺発掘調査報告
1958	第6冊	中世庭園文化史
1959	第7冊	興福寺食堂発掘調査報告
	第8冊	文化史論叢Ⅱ
1960	第9冊	川原寺発掘調査報告
	第10冊	平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告
1961	第11冊	院家建築の研究
1962	第12冊	巧匠安阿弥陀仏快慶
	第13冊	寝殿造系庭園の立地的考察
	第14冊	レースと金亀舎利塔に関する研究
1963	第15冊	平城宮発掘調査報告Ⅱ 官衙地域の調査
	第16冊	平城宮発掘調査報告Ⅲ 内裏地域の調査
1965	第17冊	平城宮発掘調査報告Ⅳ 官衙地域の調査
	第18冊	小堀遠州の作事
1967	第19冊	藤原氏の氏寺とその院家
1969	第20冊	名物製りの成立
1971	第21冊	研究論集Ⅰ
1973	第22冊	研究論集Ⅱ
1974	第23冊	平城宮発掘調査報告Ⅵ 平城京左京一条 三坊の調査
	第24冊	高山一町並調査報告一
1975	第25冊	平城京左京三条二坊
	第26冊	平城宮発掘調査報告Ⅶ
	第27冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
	第28冊	研究論集Ⅲ
	第29冊	木曾奈良井一町並調査報告一
	1976	第30冊

奈良国立文化財研究所史料

年度	名	称
1954	第1冊	南無阿弥陀仏作善集 (複製)
1955	第2冊	西大寺敬尊伝記集成
1963	第3冊	仁和寺史料 寺誌編1
1964	第4冊	俊乗坊重源史料集成
1966	第5冊	平城宮木簡 1 図版
1967	第6冊	仁和寺史料 寺誌編2
1969	第5冊	平城宮木簡 1 解説(別冊)
1970	第7冊	唐招提寺史料 1

奈良国立文化財研究所年報

1974	第8冊	平城宮木簡2	図版・解説
	第9冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅰ	
1975	第10冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅱ	
1976	第11冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅲ	

奈良国立文化財研究所基準資料

年度	名	称
1973	第1冊	瓦編1 解説
1974	第2冊	瓦編2 解説
1975	第3冊	瓦編3 解説
1976	第4冊	瓦編4 解説
	第5冊	瓦編5 解説

飛鳥資料館図録

年度	名	称
1975	第1冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏
	第2冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇

Ⅳ 機構・定員

機構の改正

1977年4月18日省令改正に伴い埋蔵文化財センター研究指導部に保存工学研究室新設。

定員

	指定職	行政一	行政二	研究職	計
1976年度	1	23	7	67	98
1977年度	1	23	7	68	99

(増員内訳) 埋蔵文化財センター 2

(減員内訳) 平城宮跡発掘調査部 1

Ⅴ 予算(1977年度)

歳	出	1,340,262,000円
人件費		337,790,000
運営費		490,924,000
事業管理		9,743,000
一般研究		45,938,000
特別研究		2,185,000
差掘調査		304,188,000
宮跡整備管理		37,574,000
飛鳥資料館運営		46,378,000
埋蔵文化財センター運営		44,918,000
施設費		511,548,000
施設整備費		99,290,000
平城宮跡地等整備費		108,660,000
各所修繕		3,598,000
不動産購入費		300,000,000

Ⅵ 施設

土地 28,138㎡(当所所管)

春日野	5,126㎡	旧病院跡購入	4,687㎡
飛鳥資料館	16,902㎡	飛鳥資料館宿舍	1,343㎡
郡山宿舍	80㎡		

1,112,405.89㎡(文化庁所管)

平城宮跡地区 964,365.36㎡

(他に奈良県先行取得地51,057.528㎡がある)

藤原宮跡地区 148,040.53㎡

建 物

建 物	春日野	平城	藤原	飛鳥資料館	計
事 務 所	797㎡	1,820㎡	465㎡	152㎡	3,234㎡
倉庫・收藏庫	191㎡	5,882㎡	1,118㎡	—	7,191㎡
車 庫	20	363	120	94	597
会 議 室	40	192	—	42	274
講 堂	109	—	—	89	198
写 真 室	86	192	32	49	359
展 示 室	—	360	—	648	1,008
覆屋・展示棟	—	1,518	—	—	1,518
そ の 他	200	473	152	1,608	2,433
計	1,443	10,800	1,887	2,682	16,812
重要文化財 旧米谷家住宅					198
合 計					17,010

主要工事

(1) 施設整備費

飛鳥藤原宮跡発掘調査部	エアコンディショナー取設工事	1,149,730円
〃	遺物收藏庫新営外工事	3,850,000
〃	〃 電気工事	500,000
飛鳥資料館庭園整備工事		890,000
〃	玉石護岸工事	1,050,000
〃	便所増設工事	5,600,000
〃	〃 電気工事	1,676,000
〃	〃 機械設備工事	2,719,000
平城宮跡北覆屋内模型移設工事		378,000
飛鳥資料館造園工事		1,384,000
平城宮跡覆屋改修工事		6,760,000
平城宮跡北覆屋天井塗装工事		7,650,000
飛鳥資料館便所増設追加工事		154,000
第4收藏庫グレーチング設置工事		130,000
平城宮跡汚水槽改修工事		500,000
平城宮跡資料館渡り廊下塗装工事		1,021,270

奈良国立文化財研究所要項

(2) 平城宮跡地等整備費	
平城宮跡灌水施設52年度工事	8,500,000
“ 散水栓外取付工事	18,050
“ 環境整備昭和52年度第1期工事	30,700,000
“ “ “ 第2期工事	65,500,000
“ 汚水浄化槽取設工事	3,941,950
(3) 建設省近畿地方建設局委任工事	
平城宮跡第4収蔵庫新営	137,550,000

Ⅶ 人事異動

(1977年4月1日～1978年3月31日)

4月1日	奈良国立文化財研究所長に昇任	坪井 清足
	辞職	小川 修三
	平城宮跡発掘調査部長に昇任	狩野 久
	文化庁文化財保護部建造物課長に転任	鈴木 嘉吉
	埋蔵文化財センター長に昇任	田中 稔
	文部省に出向(九州大学教授文学部附属九州文化史研究施設)	横山 浩一
	平城宮跡発掘調査部計測修景調査室長に昇任	安原 啓示
	文化庁文化財保護部記念物課文化財調査官に転任	牛川 喜幸
	埋蔵文化財センター教務室長に昇任	岡本 清
	文部省に出向(京都教育大学厚生課長)	藤田 修
	平城宮跡発掘調査部史料調査室長に昇任	横田 拓実
	飛鳥資料館庶務室長に昇任	森口 節之
	飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官に昇任	木下 正史
	庶務部庶務課庶務係長に配置換	山崎 一博
	国立国語研究所に出向(庶務部庶務課人事係長)	井上 政和
	庶務部会計課に転任	新井 耕治
	文化庁に出向(文化庁文化財保護部記	

	念物課)	高瀬 要一
	広島大学に出向(医学部附属病院医事課)	神村 重則
	文部技官採用	中村 友博
	事務補佐員採用	藤本きよえ
		高木 博子・山田 典子
		寺田千鶴子・嶋田 恵子
	研究補佐員採用	立花 聡
4月5日	辞職	山田 典子
4月11日	埋蔵文化財センター教務室教務係長に昇任	乾 敏光
4月14日	事務補佐員採用	畑野 恵子
5月1日	庶務部会計課専門職員に配置換	加藤 建夫
6月13日	事務補佐員採用	秋本 喜子
6月15日	辞職	嶋田 恵子
7月1日	庶務部庶務課専門員に昇任	栢本 安臣
	平城宮跡発掘調査部主任研究官に昇任	宮本長二郎・加藤 優
	文部技官採用	加藤 允彦
7月15日	辞職	新田 洋
8月1日	文部技官採用	井上 直夫
8月10日	辞職	中西千枝子
8月23日	辞職	岩本さよ子
9月1日	警務補佐員採用	藤本 清
9月11日	辞職	畑野 恵子
9月20日	事務補佐員採用	石谷 幸子
10月1日	埋蔵文化財センター研究指導部保存工学研究室長に配置換	安原 啓示
	文部技官採用	松村 恵司・本中 真
	事務補佐員採用	藤田 博子
11月1日	研究補佐員採用	広瀬 雅信・辻 秀人
12月28日	辞職	西 庸子
1月1日	建造物研究室長に転任	吉田 靖
	平城宮跡発掘調査部遺構調査室長に昇任	宮本長二郎
	文化庁文化財保護部建造物課文化財調査官に転任	宮澤 智士
1月17日	辞職	泉谷 聖子
3月30日	辞職	丸川 義広

Ⅷ 組織規定

文部省設置法 抜萃

昭和24年法律第146号
昭和43年6月15日一部改正

第36条 第43条に規定するもののほか、文化庁に次の機関を置く。

国立文化財研究所（前後略）

第41条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う機関とする。

2 国立文化財研究所の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東 京 都
奈良国立文化財研究所	奈 良 市

3 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は文部省令で定める。

文部省設置法施行規則 抜萃

昭和28年1月13日文部省令第2号、追加昭和43年6月15日文部省令第20号
昭和45年4月17日文部省令第11号、昭和48年4月12日文部省令第6号、

昭和49年4月11日文部省令第10号、
昭和50年4月2日文部省令第13号、
昭和51年5月10日文部省令第18号、
昭和52年4月18日文部省令第10号、

第5章 文化庁の附属機関

第4節 国立文化財研究所

第2款 奈良国立文化財研究所

（所長）

第123条 奈良国立文化財研究所に、所長を置く。

2 所長は所務を掌理する。

（内部組織）

第124条 奈良国立文化財研究所に、庶務部、美術工芸研究室、建造物研究室及び歴史研究室並びに平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部を置く。

2 前項に定めるもののほか、奈良国立文化財研究所に、飛鳥資料館及び埋蔵文化財センターを置く。

（庶務部の分課及び事務）

第125条 庶務部に、次の二課を置く。

- 一 庶務課
- 二 会計課

- 2 庶務課においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 職員の人事に関する事務を処理すること。
 - 二 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。
 - 三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。
 - 四 この研究所の所掌事務に関し、連絡調整すること。
 - 五 この研究所の所掌に係る遺構及び遺物の保全のための警備に関すること。
 - 六 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 3 会計課においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 予算に関する事務を処理すること。
 - 二 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。
 - 三 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。
 - 四 庁舎及び設備の維持、管理に関する事務を処理すること。
 - 五 庁舎の取締りに関すること。

（美術工芸研究室等の事務）

第127条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他の有形文化財（次項及び第3項に規定するものを除く）、及び工芸技術に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

2 建造物研究室においては、建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

3 歴史研究室においては、考古及び史跡並びに歴史資料に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

（平城宮跡発掘調査部の六室及び事務）

第128条 平城宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室及び史料調査室を置く。

2 前項の各室においては、平城宮跡に関し、次項から第六項までに定める事務を処理するほかその発掘を行う。

3 考古第一調査室、考古第二調査室及び考古第三調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物（木簡を除く）の保存整理及び

調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

- 4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。
- 5 計測修景調査室においては、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 6 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部の二室及び事務)

第129条 飛鳥藤原宮跡発掘調査部に、第一調査室及び第二調査室を置く。

- 2 第一調査室及び第二調査室においては、それぞれ藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡(藤原宮跡を除く)に関し、次の各号に掲げる事務を処理するほか、その発掘を行う。

一 遺構及び遺物の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表

二 遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表

三 史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表

(飛鳥資料館)

第130条 飛鳥資料館においては、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、国民の理解を深めるため、この地域に関する考古資料、歴史資料その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関する調査研究及び事業を行う。

(飛鳥資料館の館長)

第131条 飛鳥資料館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理する。

(飛鳥資料館の二室及び事務)

第132条 飛鳥資料館に、庶務室及び学芸室を置く。

- 2 庶務室においては、飛鳥資料館の庶務、会計等に関する事務を処理する。

- 3 学芸室においては、次の事務をつかさどる。

一 飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻、典籍、古文書その他の資料の収集、保管、展示、模写、模造、写真の作成、調査研究及び解説を行うこと。

二 飛鳥地域に関する図書、写真その他の資料

の収集、整理、保管、展示、閲覧及び調査研究を行うこと。

- 三 飛鳥資料館の事業に関する出版物の編集及び刊行並びに普及宣伝を行うこと。

(埋蔵文化財センター)

第133条 埋蔵文化財センターにおいては、次の事務をつかさどる。

一 埋蔵文化財に関し、調査研究及びその結果の公表を行うこと。

二 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の埋蔵文化財調査関係職員その他の関係者に対して、専門的、技術的な研修を行うこと。

三 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導及び助言を行うこと。

(埋蔵文化財センターの長)

第134条 埋蔵文化財センターに長を置く。

2 前項の長は、埋蔵文化財センターの事務を掌理する。

(埋蔵文化財センターの内部組織)

第135条 埋蔵文化財センター内に、教務室及び研究指導部を置く。

(教務室の事務)

第136条 教務室においては、研修の実施に関する事務を処理するほか、埋蔵文化財センターの庶務に関する事務をつかさどる。

(研究指導部の五室及び事務)

第137条 研究指導部に、考古計画研究室、集落遺跡研究室、遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室を置く。

2 考古計画研究室においては、第133条各号に掲げる事務(他の室の所掌に属するものを除く。)をつかさどる。

3 集落遺跡研究室においては、集落遺跡に関し、第133条各号に掲げる事務(遺物処理研究室及び測量研究室の所掌に属するものを除く。)をつかさどる。

4 遺物処理研究室においては遺物の処理に関し、第133条各号に掲げる事務をつかさどる。

5 測量研究室においては、埋蔵文化財の測量に関し、第133条各号に掲げる事務をつかさどる。

6 保存工学研究室においては、遺跡の保存整備に関し、第133条各号に掲げる事務をつかさどる。

職員

(1978年7月1日現在)

所属	氏名	官職	担当
	坪井 清足	文部技官 所長	
庶務課	小島 廣治	文部事務官 部長	
	音川啓太郎	文部事務官 課長	事務備員
	岩本 啓次郎	文部事務官 課長補佐	警備員
	萩原 陽雄	文部事務官 係長	警備員
	西 忠 徹	文部事務官	警備員
	木 忠 利二	文部事務官	警備員
	森田 光治	文部事務官	警備員
	岡田 博安	文部事務官	警備員
	榎本 安臣	文部技官 専門職員(併任)	警備員
	八 幡 悦子	事務補佐員	警備員
	中川 かよ子	事務補佐員	警備員
	中垣 睦子	事務補佐員	警備員
	村田 恵子	事務補佐員	警備員
	金塚 勇	文部事務官 課長	警備員
	吉田 博次	文部事務官 課長補佐	警備員
日高 参夫	文部事務官 課長	警備員	
西野 健三	文部事務官 係長	警備員	
大西 徹	文部事務官	警備員	
大前川 肇	文部事務官	警備員	
吉田 重子	事務補佐員	警備員	
吉田 和子	事務補佐員	警備員	
藤本 きよえ	事務補佐員	警備員	
吉田 博次	文部事務官 用度係長(併任)	警備員	
新井 耕治	文部事務官	警備員	
小林 雅文	文部技官	警備員	
飯田 建夫	文部技官	警備員	
中西 信男	文部技官	警備員	
東田 道代	事務補佐員	警備員	
森田 博子	事務補佐員	警備員	
日高 参夫	文部事務官 施設整備管理係長(併任)	警備員	
渡辺 康史	文部技官	警備員	
奥村 儀子	文部技官	警備員	
高木 博子	事務補佐員	警備員	
加藤 建夫	文部事務官 専門職員	警備員	
美術工芸部	田中 義恭	文部技官 室長	彫刻
	百橋 明徳	文部技官 (併任)	彫刻
	星山 晋也	文部技官 (非常勤)	彫刻
	守田 公夫	調査員 (非常勤)	彫刻
	高田 久美子	事務補佐員	彫刻
建造物研究室	吉田 靖	文部技官 (併任)	建築
	中村 雅治	文部技官 (併任)	建築
	亀井 伸雄	文部技官 (併任)	建築
	松本 修司	文部技官 (併任)	建築
	田中 哲雄	文部技官 (併任)	建築
歴史研究室	田中 稔	文部技官 室長(取扱)	歴史
	東野 治之	文部技官 (併任)	歴史
	綾村 宏	文部技官 (併任)	歴史
	岩本 圭輔	文部技官 (併任)	歴史
	西口 壽生	文部技官 (併任)	歴史

所属	氏名	官職	担当
	狩野 久	文部技官 部長	
平城警備課	町田 章	文部技官 室長	考古学
	沢田 正昭	文部技官	保存科
	菅原 正明	文部技官	考古学
	金子 裕之	文部技官	考古学
	井上 和人	文部技官	考古学
	中村 友博	文部技官	考古学
	八幡 扶桑	文部技官 専門職員	写真
	佃 幹雄	文部技官 専門職員	写真
	佐藤 興治	文部技官 室長	考古学
	田辺 征二	文部技官	考古学
宮内省	吉田 恵二	文部技官	考古学
	安田 龍太郎	文部技官	考古学
	森 郁夫	文部技官 室長	考古学
	岡本 東三	文部技官	考古学
	毛利 光俊	文部技官	考古学
	小林 謙一	文部技官	考古学
	立木 修	文部技官	考古学
	宮本 長二郎	文部技官 室長	建築
	中村 雅治	文部技官	建築
	亀井 伸雄	文部技官	建築
免指	清水 真一	文部技官	建築
	安原 啓示	文部技官 室長(併任)	遺跡庭園
	田中 哲雄	文部技官 主査	遺跡庭園
	光谷 拓実	文部技官	遺跡庭園
	加藤 允彦	文部技官	遺跡庭園
	本中 真 蘊	文部技官 調査員 (非常勤)	遺跡庭園
	狩野 久	文部技官 室長(取扱)	歴史
	今泉 隆雄	文部技官	歴史
	綾村 宏	文部技官 (併任)	歴史
	加藤 優	文部技官 (併任)	歴史
査部	加藤 優	文部技官 主任研究官	歴史
	榎本 安臣	文部事務官 事務総括(併任)	事務
	木 安 忠雄	文部事務官 (併任)	警備
	森田 光治	文部事務官 (併任)	警備
	飯田 信男	文部技官 (併任)	警備
	石田 信子	事務補佐員	自動車運転
	宮本 宣代	事務補佐員	図書資料
	橋本 伴子	事務補佐員	図書資料
	中村 美千代	事務補佐員	事務
	穴戸 雅子	事務補佐員	事務
調査部	池田 千賀枝	事務補佐員	事務
	吉村 司朗	技能補佐員	写真
	城本 きのよ	業務補佐員	保安
	石川 千恵子	研究補佐員	庁舎
	福原 まり花	研究補佐員	公開

